様式第３号

会　　議　　録

会　議　の　名　称	朝霞市立朝霞第二中学校　第３回　学校運営協議会
開　催　日　時	午後　２時００分から 令和８年　８月２６日（水） 午後　４時００分まで
開　催　場　所	朝霞市立朝霞第二中学校 １階　教育相談室（前半） ２階　第二理科室（後半）
出　席　者	田原　亮　　勝瀬　亮助　　藤巻　直也　　角谷　昌則 清水　良樹　比留間　寿昭　鈴木　重之　小石川　知治 欠席：冨重　淳　宮林　信明 【事務局】蛯原　康平（記録）　岩本　雄剛（司会）
会　議　内　容	・２学期の学校運営について ・本年度後半の行事予定について ・その他
会　議　資　料	・次第 ・９月学年だより ・年間行事予定
会　議　録　の 作　成　方　針	□電磁的記録から文書に書き起こした全文記録 □電磁的記録から文書に書き起こした要点記録 ☑要点記録 □電磁的記録での保管（保存年限　　年） 電磁的記録から文書に書き起こした場合の当該電磁的記録の保存期間：☑会議録の確認後消去　□会議録の確認後　か月 会議録の確認方法　校長・教頭による確認
その　他　の 必　要　事　項	傍聴者　　０人

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

１．開会、諸連絡（岩本教頭）

２．会長あいさつ
・職員と本音で話し合う貴重な機会。実りある話し合い。

３．校長あいさつ
・詳しくは熟議の際でお話しいたします。

４．協議
閉庁期間多少涼しい期間があった。部活動も熱中症の報告もなく安全に行えた。
夏休み前半→学校だよりに記載。裏面参考。部活動頑張った。剣道部が団体で関東大会出場。その他の部も県大会において健闘。水泳、相撲など個人種目でも頑張る姿が見られた。会長をはじめ、二中鳴子「双葉」が彩夏祭で活躍。二小との連携もしていき、この流れを地域づくりの中で活かしていきたい。
夏休み後半→生徒指導に係る案件についての情報共有を行う。
（２）本年度後半の行事予定について
・１学期以降の行事関係についての概要説明。(修学旅行・新人戦・土曜公開・合唱コンクール・１年職業体験・私立入試・２年スキー林間・公立入試・卒業証書授与式等)
・現在、学校の様子を学校ホームページに掲載をしているが、こまめに更新をしており、今後も続けていく。
・１１月７日の話→資料の簡単な説明。
（３）その他

５．次回の学校運営協議会について
・令和８年１２月２１日（月）午後３時　１Ｆ教育相談室（予定）

※ここまで教育相談室にて学校運営協議会委員のみによる学校運営協議会。
以降は、理科室にて学校運営協議会委員、教職員、保護者と教師の会役員等（保護者）による熟議。

６．先生たちと垣根を越えて語り合う会（熟議）
※学校運営協議会委員・二中職員・保護者との意見交換
テーマ　前半『通いたい、通わせたい母校とは何か』
　　後半『そんな母校にするために、私たちができる一歩』

○校長挨拶
・学校運営協議会について

○会長挨拶・趣旨説明
・学校運営協議会の在り方
・熟議について

○学校運営協議会委員自己紹介

○熟議
・６グループに分かれ、ブレインストーミング
①テーマに沿って付箋に書き出す
②模造紙に貼る
③フリートークをしながらグループごとにまとめる
④注意事項（否定・批判はＮＧ、たくさん意見を出すことを大切にする、他者の意見への便乗も大歓迎、具体でなくてもとにかく意見として出すことが大切、結論ありきにしない）

○シェアタイム
A
・土台（根）は学校設備、幹として信頼・安心、そこに枝分かれして諸々がある。
・実現に向けては、ゆとりが必要である。
・今回のテーマで考えることそのものがよい機会であった。
B
・規律・環境・大人との関係・仲間友達居場所・部活動・雰囲気
・リーダーの育成・道筋を示す、トイレをきれいに、日常会話、認め合う、活躍する場を増やす、外部との連携も必要。
C
・きれい安全安心、人間性、新たな発見。→強みがあるのがよい。
・強みを作る（食育、接遇、東洋大との連携等）
・例：食育イベント（二中でしかできないこと、そのようなコンテンツを作る）
D
・安心、楽しいがよい。
・各５校の違い。保護者の立場では、明確な違いが見えてこないという思いもある。各校の特色を正確に知ってもらうことが第一歩となるのでは。
E
・ほめられることは次の自信につながる。成功体験を積ませることが大事。機会を与え、そしてほめてあげないといけない。さらに、コミュニケーションも大事。

そういったＰＤＣＡでつなげていくことが大切。

Ｆ

・人とのつながり、やりがい、認められる、設備、安全等

・場づくり、役割づくり、機会、遊びの場、特使がやっていることを広げていく、クラスの垣根を越えてできることをやってみる、認めてあげられる環境を設定する。

校長より

・先生方に謝意。二中が誇れる教職員である。（機動力・若さ・力強さ）

・各グループへの講評

Ａ：深くまで話し合ってくれた。

Ｂ：二中の歴史、今後の部活動についてまで触れてくれた。

Ｃ：今日を機に何か１つ始めようという意気込みを感じた。

Ｄ：興味深い話として、市内の子供をどこに進学させるとよいのか。

Ｅ：まとめ方のすばらしさ。１人１人のつぶやきをきれいに拾っていた。

Ｆ：最後は教職員数についてまで迫って話ができていた。

全グループにおいて、全員が立場や持ち味を生かしながら、上手に話し合いを進めてくれていた。

「母校」という言葉を今回以降大事にしていきたい。それぞれの立場で、二中生のために力を貸してほしい。

会長より

・同じ目的に向かって話し合いをしていただいたことに謝意。引き続き、二中生のためにそれぞれの立場からご協力をお願いしたい。

・熟議内容については、今後まとめて共有する予定である。

７．閉会の言葉（岩本教頭）